

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	内分泌・代謝学・糖尿病学 Endocrinology, metabolism and diabetes	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎石川 敏夫 塚本 和久 冲永 寛子	盛田 幸司 宇野 健司		男澤 悠貴 内野 卓也	
-					
-					

	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅰ (1年次)				内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅱ (2年次)				内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	講義・演習において、内分泌疾患(下垂体・甲状腺・骨カルシウム代謝・副腎・性腺などの異常)および代謝疾患(糖尿病・脂質異常症・動脈硬化症・痛風など)の障害機序を生化学的および生理学的に理解した上で、実習で診断と治療、合併症の予防と管理について実戦的な知識と技能を習得する。指導医のもとで主治医として病棟診療を行い、カンファランスなどを通じて外来診療の実践についても学習し、患者教育や症例の学会発表を経験する。また、関連する他科・内科他領域と随時行われるミーティングに参加する。				「内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅰ」の内容を継続すると共に、指導医に相談できる環境で内分泌・代謝疾患の外来診療にも携わり、当分野のCommon disease(特に糖尿病、脂質・尿酸異常、甲状腺疾患など)に対応する力を習得する。カンファランスなどを通じて他験例も学習し適切な対処法を学び、一通りの内分泌疾患に内科医として独力で対応できる能力を身につける。講義・演習などによって臨床的・基礎医学的に必要な知識を習得し、各疾患に関して最新のガイドラインを実践する姿勢を身につける。				「内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅱ」の内容を継続すると共に、診療経験を深めるとともに広げ、遭遇するのが稀な内分泌・代謝疾患に対しても適切な情報を集めた上で対処できる力を養う。内分泌・代謝疾患に関連した臨床的・基礎医学的な研究を理解する。また、臨床的・基礎医学的に必要なデータの集計、基礎医学的手法、統計解析などを学ぶ。内分泌・代謝・糖尿病分野の病棟・外来診療が出来る専門医師として独り立ちできる力を身につける。			
到達目標	1) 内分泌・代謝領域のCommon diseaseの病態・疫学を理解する。 2) 内分泌・代謝領域の緊急症に対応できる。 3) 各疾患において汎用される検査(血液・尿・画像など)の意義を理解する。 4) 各内分泌・代謝疾患の診断・治療の流れを学習する。 5) 汎用される薬剤(抗糖尿病薬・脂質降下薬・尿酸降下薬・抗甲状腺薬/甲状腺ホルモンなど)の特性・副作用を学ぶ。 6) 甲状腺超音波検査の概要を学ぶ。				1) Commonな内分泌・代謝疾患について診断をつけ、最新のガイドラインに基づいて治療・管理の方針を計画できる。 2) 他科・他グループからの内分泌・代謝領域に関する依頼・質問に上級医と相談の上、適切に回答できる。 3) 汎用される検査(血液・尿・画像など)の結果の異常について解釈・対応ができる。 4) 患者教育・指導を適切に行える。 5) 邦文の症例報告・臨床研究を理解できる。 6) 甲状腺超音波検査を実践できる。				1) ひと通りの内分泌・代謝疾患に対して、病棟・外来において適切な診療を行い、他科・他グループからの依頼・質問に自ら対応できる。 2) 比較的稀な内分泌・代謝疾患についても、必要に応じて情報を集め、適切に対処できる。 3) 英文の内分泌・代謝疾患に関連する症例報告、臨床的・基礎医学的論文を読解できる。 4) 内分泌・代謝疾患の診療に関して、学生・初期研修医に指導・助言ができる。			
事前事後学修	内分泌・代謝疾患教科書(どれでもよいが、比較的薄いマニュアル的な実用書)を通読し、常時携帯して活用する習慣をつける。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				各疾患について、議論をする前に学会のガイドラインを理解しておく。特に内分泌疾患については、信頼できる英文教科書の該当箇所を予習しておく。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				各疾患について、議論をする前に信頼できる最新のレビュー(邦文・英文)を読んでおく。議論に必要な統計学・基礎医学的手法を含めて、予め学習しておく。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 40% (発表・発言・討論状況など) 症例要約作成 60%				受講態度 40% (発表・発言・討論状況など) 症例要約作成 60%				受講態度 40% (発表・発言・討論状況など) 症例要約作成 60%			

■主な演習(講義・実習含む)

	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅰ (1年次)	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅱ (2年次)	内分泌・代謝学・糖尿病学Ⅲ (3年次)
板橋	火 曜日 11 : 00 ~ 12 : 00 総合内科病棟回診	火 曜日 11 : 00 ~ 12 : 00 総合内科病棟回診	火 曜日 11 : 00 ~ 12 : 00 総合内科病棟回診
	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 内分泌・代謝・糖尿病症例検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 内分泌・代謝・糖尿病症例検討会	火 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 内分泌・代謝・糖尿病症例検討会
	水 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 内分泌・代謝・糖尿病概論	水 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 内分泌・代謝・糖尿病概論	水 曜日 16 : 00 ~ 17 : 30 内分泌・代謝・糖尿病概論
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

マニュアル的実用書としては「内分泌代謝疾患レジデントマニュアル」(医学書院)など。また、「内分泌代謝専門医研修ガイドブック」(診断と治療者)・「糖尿病治療ガイド」(文光堂)・「糖尿病専門医研修ガイドブック」は将来の専門医試験受験のためにも必携。糖尿病学会、内分泌学会、動脈硬化学会、肥満学会、痛風・核酸代謝学会、甲状腺学会などが発行するガイドラインを精読し、実践に努める。

その他履修上の注意事項

機会があれば海外の学会(米国内分泌学会など)での発表を経験する。そのためにも、普段から英語自体を継続して学習していることが望ましい。

本人の希望・先方の受入れ態勢等次第であるが、学外施設における内分泌・代謝領域の研究に従事する可能性がある。試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。

この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

副科目 内科系の各科目・小児科学・臨床検査医学など関連領域を1科目以上、履修する。

共通科目 代謝医科学特論(必修)

関連する専門医資格

内科専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医。
いずれも各学会の規定を満たした時点で受験申請可能。

キャリアパス(モデルコース)

